アジア太平洋地域大気環境改善に関するパートナーシップ（APCAP）

文責：IGES

背景

環境省との協力の下、UNEP/ROAP が実施機関となり、IGES や ACAP を含む関連機関や専門家との連携により実施。2015 年正式発足した。APCAP は UNEA3 の決議 3/8「地球規模の大気質改善のため大気汚染の防止および低減に関する決議（“Preventing and reducing air pollution to improve air quality globally”）」を通じてアジア太平洋地域の情報・知識共有および協力を促進するためのプラットフォームとして認識されている。

APCAP は、「アジア太平洋地域の大気環境に関する合同フォーラム」と「科学パネル」を中心に活動が展開している。「合同フォーラム」は、この地域における CAA や EANET など、大気汚染に関する様々なイニシアティブの相互調整、連携促進、コンセンサス構築を目指すプラットフォームである。「科学パネル」は、大気科学の知識コミュニティにより、国家政策決定のプロセスの支援を行うとしている。「科学パネル」のメンバーを末尾に示す。

APCAP 第一フェーズの主要な活動

2014 年から 2018 年までの APCAP の第 1 フェーズの 3 本柱は、1)　大気浄化に関する地域レベルの調整と知識共有、2) 大気汚染に関する科学と政策の接点（インターフェイス）の強化、3）課題対処のための各国の能力強化である。成果物としては以下に述べる「ソリューションレポート」や「ポリシーブリーフ」がある。

<u>アジア太平洋地域の清浄な大気環境実現のためのソリューションレポート（地域評価報告書）（Atmospheric Pollution in the Asia Pacific: Science-based Solutions）</u>

アジア太平洋地域におけるソリューションレポートは、アジア太平洋地域における大気汚染の見通しと政策措置に関する初めての包括的かつ問題解決志向型の学際的科学評価として、昨年 11 月の WHO 総会で発表された。本レポートの作成・出版は、APCAP と CCAC の協働のもと行われた。

執筆にあたっては、地球環境戦略研究機関（IGES）、ストックホルム環境研究所（SEI）、国際応用システム分析研究所（IIASA）を中心に、アジア地域内外の多数の専門家が関与した。レポートは、持続可能な開発目標（SDGs）と整合した大気汚染対策の選択肢を提示し、アジア太平洋地域における取組への支援を目的とする。過去のデータと将来見通しに基づき、経済動向が大気汚染に与える影響について詳細な分析を実施した。分析の結果、人の健康、農作物収穫量、気候と環境、社会経済的発展等における利益を最大化しつつ SDGs の達成にも貢献する「クリーンエア対策トップ 25」の対策を選定し、提示した。地域の状況に適した費用対効果の高い、「クリーンエア対策トップ 25」を導入するメリットを明らかにし、実施にあたっての指針を事例に基づき解説している。

大気汚染対策の実践と経験の共有のためにも活用され始めている。なお、日本語版が IGES と ACAP により作成・公開されたほか、中国語版等も作成・公表されている。

APCAP 第 2 フェーズの主要な活動

2019 年から始まった第 2 フェーズの重点分野は、以下の3つである（第 2 フェーズは、2023 年度まで実施）。

- 「クリーンエア対策トップ 25」を中心とした PM2.5 排出量削減のための戦略的なセクター介入
- 地域レベルの知識共有、アウトリーチおよびパートナーシップ
- 科学と政策の接点（インターフェイス）および科学に基づく大気浄化戦略

具体的な活動は以下の通り。

1）CCAC と協働で、カンボジアにおける国家クリーンエア計画（NCAPC）の策定に向けて同国環境省への支援を開始した。2020 年 2 月 21 日にカンボジアのプノンペンで導入ワークショップを開催した。また、米国政府の支援を受け、クリーン・エア・ソリューション・ハブ（オンラインプラットフォーム）を設置。ウェビナーを実施した。

2）ソリューションレポートを補完する新たなツールとして、クリーン・エア・ソリューション・トラッカーを開発する。主たる目的は、以下の 4 点である。

- 大気汚染削減のための対策の進捗状況を把握する
- 「BreatheLife」キャンペーン（WHO と CCAC が主導）の下でのコミットメントへの進捗状況を把握する
- パートナーやドナーが参照できる、大気質関連のプロジェクトやイニシアティブのインベントリを提供し、相乗効果を発揮し、活動等の重複を回避する
- 大気質に関する国連環境総会決議の報告に貢献し、アジア太平洋地域の大気汚染に関する将来の評価に情報を提供する

ソリューション・トラッカーは、現在アジア太平洋 41 か国における、環境基準や大気管理計画、モニタリング、「クリーンエア対策トップ 25」の実施状況などの情報を含むデータベースの作成を進めており、2021 年 3 月までにオンラインのシステムを立ち上げる予定。その間「クリーンエア対策トップ 25」の実施状況に係る報告書の作成を行う。同年の UNEA でも紹介される予定（UNEA 決議 3/8 への報告）。

3）科学パネルによるポリシーブリーフを年間 3 本程度発行。

また、2021 年～2022 年に第 3 回合同フォーラム開催を予定（COVID19 の諸状況を鑑み実施時期、場所等を検討）。アウトリーチ活動の一環として年 3 回程度ニューズレターを発行予定。

（参考）「科学パネル」メンバー （2020 年2月）

- Jiming Hao, China [Chair]
- Hajime Akimoto, Japan [Vice Chair]
- Rajasekhar Balasubramanian, Singapore
- Markus Amann, Austria
- Nguyen Thi Kim Oanh, Thailand
- Young Sunwoo, Republic of Korea
- Zhang Shiqiu, China
- Toshihiko Takemura, Japan
- Shuxiao Wang, China